

今、こんなにも多くの処理施設が汚染がれきの受け入れを表明していることをご存知でしょうか？これが実現されれば、関西全域が深刻な放射能汚染を免れなくなってしまうことは必至です。東日本へクリーンな食べ物を提供するためにも、私たちは汚染がれきの受け入れを拒否しなければなりません。

このデータはあくまで氷山の一角です。受け入れ表明を雑誌に掲載することを拒んだ自治体もあります。

- 滋賀 草津市、栗東市、彦根市、中部清掃組合、湖北広域行政事務センター、大津市
- 京都 亀岡市、船井郡衛生管理組合、京都市、伊根町
- 大阪 岸和田市貝塚市清掃施設組合、吹田市、高槻市、枚方市、茨木市、岬町、柏羽藤環境事業組合、泉南清掃事務組合、泉佐野市田尻町清掃施設組合、東大阪市清掃施設組合、箕面市、摂津市、寝屋川市、豊中市、熊取町、堺市、四條畷市交野市清掃施設組合、泉北環境整備施設組合、池田市、門真市、大阪市
- 兵庫 神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、相生市、豊岡市、加古川市、土塚市、三木市、高砂市、三田市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、播磨町、佐用町、香美町、新温泉町、揖龍保健衛生施設事務組合、中播北部行政事務組合、洲本市・南あわじ市衛生事務組合、小野加東環境施設事務組合、くれさか環境事務組合、猪名川上流広域ごみ処理施設組合
- 奈良 大和郡山市、天理市、生駒市、田原本市、南和広域衛生組合、十津川村
- 和歌山 和歌山市、御坊広域行政事務組合、岩出市、田辺市



8月8日発売『AERA』p12~13 より

事故前は原子力事業者が廃棄物を処分する場合、セシウム137が100ベクレル/kg以上であれば放射性廃棄物として、**低レベル放射性廃棄物処理施設で長期保管**することとされていました。今はこの1000倍もの濃度の、10万ベクレルのものが**一般廃棄物**として埋め立て可能になってしまいました。関西においてもこの基準が適用されかねません。また、煙に含まれる有害物質の拡散を防ぐフィルターがなくとも焼却に問題なしとしています。このような横暴を、私たちは許してよいのでしょうか？

放射性廃棄物の基準値 (放射性セシウム濃度)	
事故前	事故後
100Bq /kg	100000Bq /kg*

*一般最終処分場に埋め立てできる焼却灰の基準値

復興のために
がれき受け入れ
拒否を

局地的な問題ではない

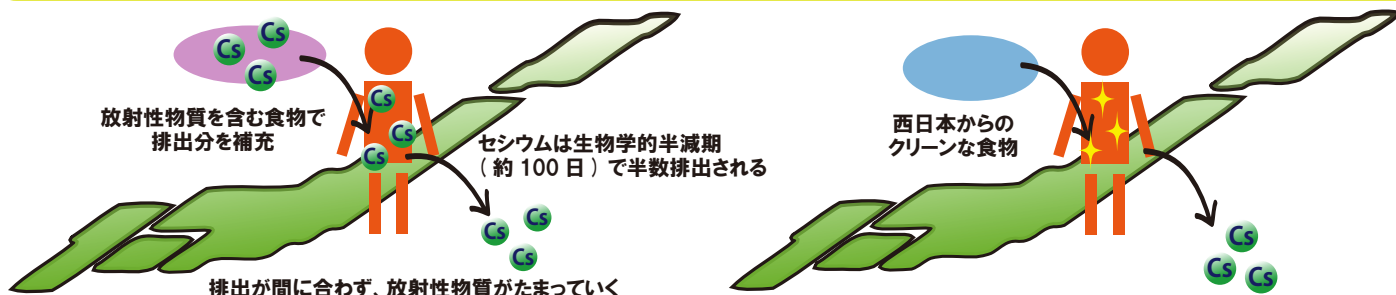
がれきを受け入れると、処理施設周辺の住人の深刻な被曝が懸念されます。それだけでなく、風向きによって施設のない地域も汚染されてしまうのです。関東には福島第一原発から200km以上離れているにもかかわらず、ホットスポットと呼ばれる線量の高い場所が存在します。ただ距離が離れているからというだけで安心することはできません。ですから、放射能汚染の対処の基本は「人は避難し、物は封じ込める」しかないのです。関西の汚染を看過することは、東日本の人々の逃げ場を奪うことを意味します。私たちはがれきではなく、被災者の受け入れに積極的になるべきです。

！ がれきだけではありません！

皆さんもご存じのとおり、すでに高濃度の放射性物質を含んだ腐葉土が肥料として日本中に運ばれてしまっています。着々と全国の人為的な汚染は進んでいるのです。放射性物質は煮ても焼いてもなくなりず半減期を迎えて自ら崩壊するまでずっとその土地の自然のサイクルに取り憑いて私たちの健康を害し続けます。これ以上の汚染は何としても阻止しなければなりません。

関西をクリーンに保つことが本当の復興支援です

復興支援とは皆で被曝して不健康になることでしょうか？少しでも汚染されていない地域を守り、皆で健康になることではないでしょうか。被曝量を少しでも減らすために、東日本からたくさんの方が関西へ移住してきたり、休みなどを利用して旅行したり、食べ物を取り寄せたりしています。関西は東日本にとって「最後の希望」なのです。私たちのふるさとを守ることで、復興のお手伝いをしようではありませんか。



例えばセシウムは、身体の排出機能により半減するまでに約100日かかります。しかし日常的に汚染されたものを口にすると、どんどん体内にたまっていってしまいます。クリーンな食物を摂取することにより、生物学的半減期は初めて意味をなすのです。

一番の被害者は子どもたちです！

細胞の活動が盛んな子どもは大人の3～5倍放射線の影響を受けやすいと言われています。子どもの20mSvの被曝は、大人の60～100mSvと同等の被曝なのです。チェルノブイリ周辺地域では、子どもの甲状腺ガンが、事故から4年後に爆発的に増加しているというデータがあります。ガンだけではなく。健康な子どもが減り、慢性的病気のある子どもが増え、障害児の数も増加していると言います。

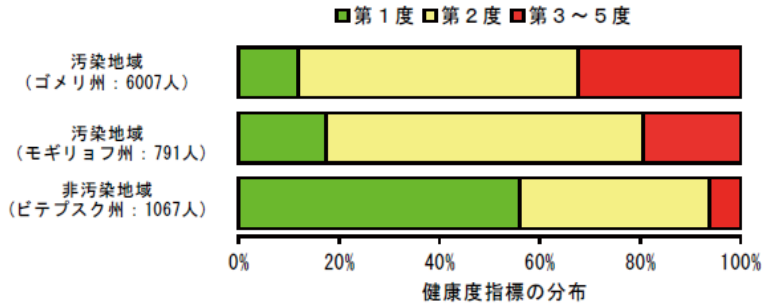
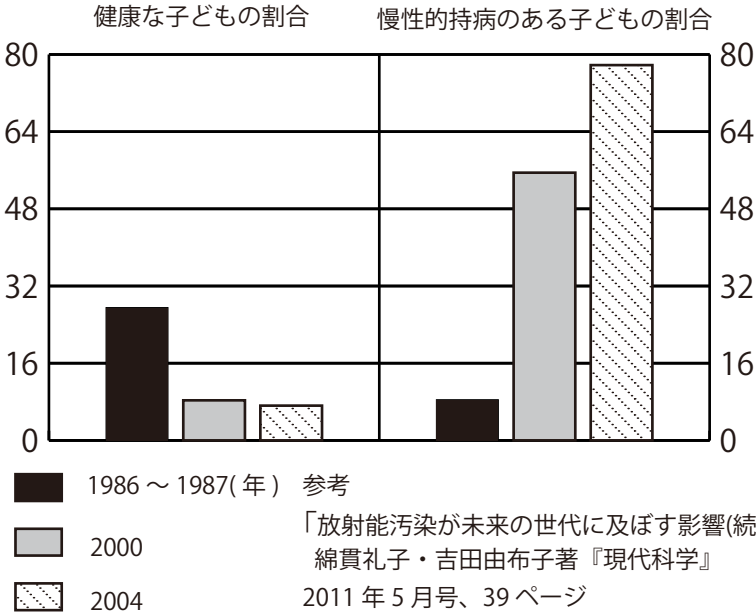


図10. WHO/IPHECA プロジェクト (1992-1994年) によるベラルーシの子供の健康度調査結果。
・健康度指標: 第1度はすべての指標にてらし健康上問題ない子供, 第2度は機能上の問題が認められ慢性病にかかりやすい子供, 第3度～第5度は慢性病が認められる子供。
・汚染地域はセシウム 137 が 15 キュリー/km² 以上の居住区。

私たちはどうすればいいの？

・自分自身で事実確認をお願いします。インターネットで「がれき 焼却 全国」と検索してください。また、こちらのサイトが分かりやすく、詳細です。



原発震災廃棄物・広域処理問題 @ まとめ
<http://www47.atwiki.jp/tsunamiwaste/>

- ・環境省に状況(検査の有無、危険性への知見)の確認をしましょう。
- ・自分自身の健康、日本の未来を守るため、皆さんの声を自治体に届けてください。

何を話せばいいの？

- ・汚染がれき受け入れについての真偽、受け入れの意思の有無を確認する
- ・処分が決まった際、住民に事前に告知するのかわたずねる
- ・放射線量の測定はするのか、汚染が認められたがれきの扱いはどうするのか確認する
- ・受け入れには反対だという自分の意見を伝える

「世界もおおむね日本の基準値2000ベクレル」

ver3.0

こんなにゆるい日本の暫定基準値



●正しい知識で子どもたちを守りましょう。

目のみものの基準値

アメリカの法令基準	0.111 Bq/L
ドイツガス水道協会	0.5 Bq/L
ウクライナ(セシウム137)	2 Bq/L
WHO基準(ヨウ素131)	10 Bq/L
WHO基準(セシウム137)	10 Bq/L
ベラルーシ	10 Bq/L
国際法 原発の排水基準値	
ヨウ素131	40 Bq/L
セシウム137	90 Bq/L
日本の暫定基準値(乳児)	100 Bq/L
日本の暫定基準値	
セシウム(Cs-137)	200 Bq/L
ヨウ素(I-131)	300 Bq/L

ママも赤ちゃんの基準値

ベラルーシ(子供)	37 Bq/kg
ウクライナ(野菜)セシウム137	40 Bq/kg
ベラルーシ(野菜)	100 Bq/kg
コーデックス(Sr90,Ru106,1131,U235の合計)	100 Bq/kg
アメリカの法令基準	170 Bq/kg
これまでの日本の輸入品規制値	370 Bq/kg
日本の暫定基準値(野菜)セシウム137	500 Bq/kg
日本の暫定基準値(野菜)ヨウ素131	2000 Bq/kg

●コーデックス: CODEX, FAOとWHO共同の合同食品規格委員会

- 滋 賀 520-8577
大津市京町4-1-1 0775-24-1121
- 京 都 602-8570
京都市上京区下立売通新町西入敷の内町 075-451-8111
- 大 阪 540-8570
大阪府中央区大手前2-1-22 06-941-0351
- 兵 庫 650-8567
神戸市中央区下山手通り5-10-1 078-341-7711
- 奈 良 630-8501
奈良市登大路町30 0742-22-1101
- 和歌山 640-8585
和歌山市小松原通1-1 0734-32-4111

各自治体連絡先